

会社主催の「リニア説明会」で不安・批判的意見が続出

6月13日、中津川市東美濃ふれあいセンターで「リニア中央新幹線に関する説明会」が開催されました。JR東海会社とリニア建設促進岐阜県期成同盟会が主催しました。内容は、中津川市長・岩田JR東海中央新幹線推進本部副本部長らの挨拶が30分程度、内田JR東海環境保全統括部長のパワーポイントによる説明で1時間程度、その後、質問と回答で1時間程度の説明会でした。

目先の利益のみで早期建設に走っているのではないか

特に質問では、トンネルから掘り出された残土処理、騒音、生態系への影響、電磁波、費用対効果、トンネルでの避難誘導をどうするのかなどの生活上の不安や安全、健康に与える影響などの質問が多く出されたようです。

新聞には電力問題・原発問題が見出しとして使われています。質問の中で、原発に依存することは、100年200年先に責任を持てるのかという意見が中津川で出されたということです。リニアは原発3基から5基分の電力を使うと言われています。

(6月14日中日新聞)

0.3%は小さな数字なのか！

会社はこれに対して、「中部電力と東京電力がこの夏に原発抜きで供給する電力の0.3%に過ぎない。電力会社の余力の範囲内で十分に賄える」と回答しています。国などは電力が足りないから大飯原発を再稼働する、電力不足だから節電をすると宣伝している中で、JR東海は余力の範囲内と説明しているのです。この説明会のやり方は、かつ原発を建設するとき電力会社が行った公開ヒヤリングと同じようなやり方ではないのでしょうか。既成事実を作り強引にリニア建設を進める先に何があるのでしょうか。

私たちは当事者です。しっかりとJR東海の将来と自分の将来に責任を持つためにしっかりと声をあげていきましょう。

